

Cotton Up



こっとなあつぷ Vol. 117

みなさん、今年もおつかれさまでした！！ おいしいランチで忘年会(^o^)



おしゃれなレストランで、
おいしいお料理に
舌つづみ！
ながめも最高でした！！



一品ずつ出てくるコース料理。
待ち時間は職員とおしゃべり
したり、写真付のお品書きや
タイマーで予定を確認しながら
待っています。



目次

- ・「TDSN40 (Tanpopo Daily Support News)
～「人に頼ること」を経験する～ <2～4 ページ>
- ・ものとらっくまるちとらっく <5 ページ>
- ・後援会のご案内・ボランティアさん大募集中！！ <6 ページ>
- ・編集後記（編集部） <6 ページ>

～「人を頼ること」を経験する～

■ “Aさんの紹介”

これまでも紙面でご紹介していますが、わたげでは様々な受注作業を中心に、日中活動をしており、Aさんはケーブルの作業を中心に行っています。長いケーブルを一定の長さに切る、ゴム皮をピーラーで剥く、ケーブルの数を数えるなど、様々な行程に携わっています。

Aさんは日頃、活動内容を示す写真と文字のカードを、上から並べたスケジュールを活用して生活をしています。スケジュールの作業カードには作業種カードが貼付けてあり、一日の作業をどのような順番で進めればよいのかが分かるようになっています。またAさんの作業机には、材料を入れる棚が用意されています。Aさんはスケジュールの作業種カードを確認し、棚から必要な材料を取り出して作業を始めます。

作業は『〇さんが行った作業の完成品を、次に△さんが材料として活用する』といったように、流れの中で進んでいきますので、その時の作業状況によっては、Aさんのスケジュールに示されている一日分の材料が、すぐにAさんの手元には揃わない時があります。そんな時Aさんは、他の作業室から材料を持ってきてしまったり、既に準備が出来ている作業から始められるように、スケジュールを自分で組み替えてしまったりすることがありました。先ほどもお話したとおり、Aさんが行った作業の完成品が他の利用者さんの材料となることもあり、予定通りに作業を進めて欲しいところなのですが、Aさんの、材料に不安のない状態で作業を始めたい、材料を用意しておきたいという気持ちも分かるのです。

そこで、材料が必要になったその時に、材料が必要であることを誰かに伝えることが出来る方法を、Aさんと一緒に取組んで行くことにしました。

■顔写真の職員に材料を受け取りに行く取り組み

初めに「ざいりょうをください」という文字のカード、材料を渡す職員の顔写真カード、作業種のカードを組み合わせたものを用意しました。(左下写真)次にAさんの材料箱にも作業室内にも必要な材料が無い状態にした上で、材料を不足が伝えられるように練習をしました。



顔写真の職員は材料を持って本人から離れたところに立ち、もう一人の職員が、Aさんの側にいて、顔写真の職員に近付いて、材料くださいカードを出せるように、カードを持った本人の腕に手を添えて、黒子のように付添いサポートしました。

繰り返し練習していくうち、徐々に職員に近付くことができる様子はありませんでしたが、「しっくり」とはきていない様子でした。カードの内容が「写真の人がどこにいるかを探す」「その人の所に行く」「材料を要求する」と複雑で、また、今まで材料を自分で用意していた経験もあり、材料を誰かに用意してもらうことでのメリットまで繋がりにくいのではないかと考えました。



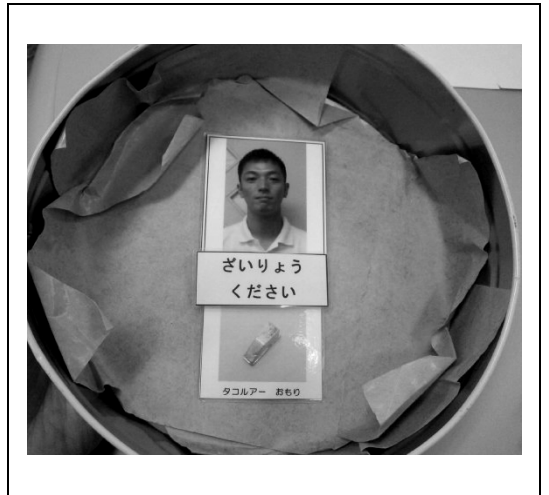
職員が手を添えてサポート

■新たな作業種でのコミュニケーションカードの活用

そんな折、Aさんは、釣具会社から受注しているタコを釣るための釣り針を組み立てる作業に携わることになりました。

2枚のプラスチック板で、釣り針2本と重りを挟み、輪ゴムで留めるという行程です。この作業では、プラスチックの板を材料棚に用意し、重りや針、輪ゴムは作業机に用意しました。

作業はプラスチックの板が無くなったら終わりであること、そして、それ以外の針、重り、輪ゴムの材料箱の中に、職員の顔写真カードと、材料くださいカードを合わせたものを用意しました。(右写真)



実際の作業では、材料が無くなりそうなタイミングを見計らって、材料くださいカードを指差して促したり、別の職員が、受け取る材料を持った職員の所まで本人を誘導して、カードを使う事を確認しました。また、カードを正しく使えた時にはその都度、出来たことを評価する声かけを行いました。この繰り返しの結果、顔写真の職員の所にカードを持って行き、材料が無いことを訴えることが、次第に自立して出来るようになりました。

今回の作業では、作業を始める前に材料がすべて揃っていて、安心できる環境の中、作業を始めることが出来ます。そして作業を進めていくうちに、材料が足りなくなることで初めて「材料が必要だ」という状況になります。その時にコミュニケーションカードを使うことで、より必要性を感じる事が出来たのではないかと推測しています。そして、繰り返し、材料くださいカードを使う事で、職員の顔写真が無くても、誰にでもカードを見せて材料の不足を伝える事ができるようになりました。

現在ではこのタコルアー組み立て作業の手順や材料の受け取り方を十分理解しており、受注があった際には、Aさんだけで受注した作業の大部分を担うことがあるほど、意欲的に作業を行っています。



釣具組み立て作業

大きな釣り針に注意しながら、器用に組み立てることができています！

(右写真) 筒状にしたボール紙に、輪ゴムを3重に巻いておき、それをスライドさせて、組み立てたタコルアーにはめていくことで、すべての行程をひとりで行うことができます。

■ケーブル作業でのコミュニケーションカードの活用

コミュニケーションカードを使って職員から材料を受け取ることは、新たな作業の手順の1つとして取り入れる事で出来るようになりました。そこで、最初にお話したケーブル作業でも活かせるように、再度取り組みました。

始めに取り組んだ時と同じように、Aさんの材料箱の中は空の状態にしておき、箱の中には「材料ください」カードと必要な材料の作業種カードを合わせたものを入れておきました。そして今回は、予め材料を作業室の一箇所に用意しておき、それをAさんに見せることで、作業室内には材料が十分にあることが、視覚的にわかるようにしました。材料が既に用意されているという安心感があることで、材料くださいカードを使いやすくなるのではないかと推測したからです。

作業開始時、Aさんは自分の材料ケースが空であることを確認したあと、ケースの底にある材料くださいカードを手に取り、すぐに作業室内にいる職員に出すことができました。職員はAさんがカードを出した瞬間、カードの内容を読み上げ、「材料準備します」と伝えてから、事前に準備していた材料をAさんに渡しました。Aさんは材料を受け取ると、いつもと同じように作業を開始しました。

材料が確保されているという安心感や、タコの釣り針組み立て作業での「材料の不足を伝え、補充を依頼する」という経験を経て、作業種が変わっても活かすことが出来るようになりました。現在は、どの作業でも、材料が不足した時は、その材料にあったコミュニケーションカードを活用して、職員から材料を受け取ることが出来ています。



材料を必要とする時に、自分でカードを差し出すことで、すぐに材料を受け取ることができます。

■おわりに

取り組みを行う前のAさんの姿は、一見すると「困った行動」と思われがちです。しかしAさんの立場になってみると「材料を事前に用意しておいて、安心した状況で作業を始めたい」「出来ることは自分でやりたい」という、本人なりの理由があります。そんなAさんに対して、自分でやろうとする思いを活かして環境を整え、自立して準備が出来るようにすることも支援の一つです。一方で、作業室の一員として作業に携わっていく時に、ある程度決まった順番を守る事や、待つ事など、周囲に合わせる必要もあります。行動の裏にある本人の気持ちを汲み取りつつ、その思いを適切な方法で誰かに伝える～人を頼る～ことで解決することも出来るのだということを、経験を通してAさんに知ってもらえたのではないかと思います。

今回の取り組みを通して、信頼関係や安心感は、日頃の関わりの積み重ねが大切なのだと改めて感じました。今後も、Aさんの自分でやりたいという気持ちを大切にしつつ、必要な場面で人を頼ること、そして、人を頼ることでAさん自身の生活が豊かになるという実感を持っていただけるように、支援を継続していきたいと思います。

對馬正太郎

このコーナーでは、毎月「横須賀たんぽぽの郷」最新ニュースをトピックスでお伝えしていきます。

篁一誠先生 来所

10月21日（金）篁一誠先生（PDD サポートセンターグリーンフォレスト）に、三浦市のふぁずへ一年振りにお越し頂きました。日中の利用者の様子を見て、利用者が自分で作業の準備や片付けを行なう様子が増え、スケジュールを手がかりにしながら、次に何をすべきなのかを判断して動く姿が出始めているとの感想を頂きました。

また、12月9日（金）にはわたげに来所頂きました。新しい余暇活動として、テレビ画面を見ながらバランス体操等を行い、本人の動きについて、ゲームのナビゲーターから、採点や「残念」といった、本人にとっては否定とも取れる言葉が投げかけられるゲームを取り入れる際、ゲームを安心して受け入れていくために、どのような支援が必要かお聞きしました。先生は、まずは職員が失敗する様子を見せ、こんなことも言われるということを実際に見てもらい、ゲームをするかしないかを自分で決めてもらう。また、やってみて失敗した時は、できるだけ時間を置かずに、負の感情が大きくなる前に、再チャレンジの機会を設け、成功の経験に変えてあげることが大切にして欲しいとお話ししてくださいました。

篁先生から頂いたアドバイスを様々な場面で活かし、これからも利用者の皆さんが生き生きと活動できるよう支援に努めたいと思います。

忘年会が始まりました！！

みなさん、今年はどんな年でしたか？ 私たちの施設、「わたげ」と「ふぁず」では、毎年12月に、一年の労をねぎらい忘年会を開催しています。すっかり恒例行事となり、利用者のみなさんは12月が来る前から楽しみにされています。

今年は、ガッツリ「肉・肉・肉」のステーキが食べられるお店と、ゆったりコース料理を楽しむお店、ステーキとハンバーグ両方食べたいという欲張りな望みをかなえるお店をご用意しました。利用者の皆さんは、それぞれに食べたいコースを選び、素敵な食事を楽しんでいただいているようです。



クリスマスバージョンの店内が、忘年会を一層華やかにしてくれました(*_*)



たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、地域の一員として自分らしく生活していくために、必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員	1口	3,000円
	団体会員	1口	10,000円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474

郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会



ボランティアさん 大募集中！！

わたげ・ふぁず・こっとなはうすで、自閉症を伴う方々と一緒に何か活動してみませんか？

作業の検品、余暇活動の支援、清掃等

お手伝いをしていただけの方がいましたら、ご連絡ください！！

〈連絡先〉

わたげ 電話：046-844-0038（担当：つしま）

E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp

ふぁず 電話：046-888-3961（担当：さかい）

E-mail: adz13970@ams.odn.ne.jp

こっとなはうす 電話：046-852-8355（担当：ひがしがわ）

E-mail: tanpoponosato-ch-rg250e@jcom.home.ne.jp



編集後記 ～編集部～

今年11月、当法人は設立20周年を迎えました。横須賀地区自閉症児・者親の会が中心となり、自閉症を伴う方たちが、生まれ育った地域で豊かな生活を送ることを支えるという事を目指し立ち上げられました。ご家族の理解と協力体制を始めとして、関係する多くの方々に支えられて、私たちは20年という歳月を積み重ねることができました。積み上げてきたことを守っていくこと、そしてさらなる進化が求められていると感じ、改めて身が引き締まる思いです。職員一同、ますます精進してまいります。今後も横須賀たんぽぽの郷をよろしくお願い致します。

今年もこっとなあつぷをご愛読いただきましてありがとうございました。

みなさま、良い新年をお迎えください。

（庄司）

編集 社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21

TEL:046-844-0038/FAX:046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp